

ー 歴史探訪 ー

「高断熱化とブローイング」

～なぜ快適な住まいに必要なのか？～



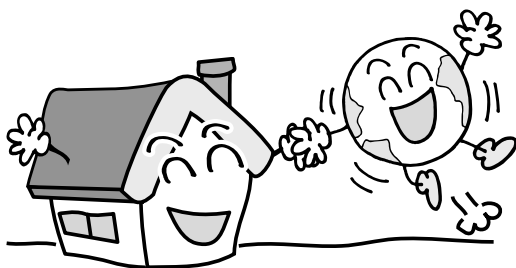
その8

住宅と地球温暖化

少ないエネルギーで快適な室内環境を実現し、資源保護や地球温暖化防止にも大きく貢献する高断熱・高気密化は、北海道・東北などの寒冷地でこそ普及が進んでいますが、関東以南ではまだこれからといった状況は変わっていません。

しかし、わが国としては平成9年、京都で行われた気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）で、2008年から2012年までに地球温暖化効果ガスの平均排出量を1990年比で6%減らすことを決めたため、特に住宅・建築分野では省エネルギー基準の強化及び情報提供の推進を掲げ、よりいっそうの省エネルギー化を図ろうとしています。これは関東以南も例外ではありません。

そこで今回から、住宅の省エネルギー政策と高断熱化の現状と方向性について、紹介していききたいと思います。

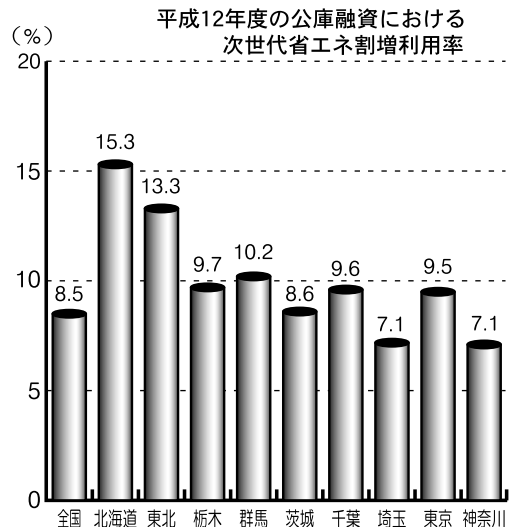


住宅の省エネ化は地球温暖化防止に大きな意味を持つ

次世代基準の普及状況は？

まず、住宅・建築分野における省エネルギー化政策として、現在、住宅業界に最も関わりある次

世代省エネルギー基準ですが、ご承知の通り平成11年3月の登場から3年が過ぎた今でも、普及が遅れており、住宅の高断熱・高気密化を推進し、地球温暖化ガスの排出量を減らすという役割を、いまだ十分に果たしてはいません。



例えば平成12年度の公庫融資利用状況を見ても、次世代省エネ基準による割増融資工事を希望するケースは全国平均で8.5%と1割未満。関東地方を見ると、7～10%程度です。高断熱・高気密化が進んでいる北海道でも15.3%、東北も13.3%と、全国に比べれば高い割合を示していますが、それでも少ない数字と言えるでしょう。もちろん、次世代省エネルギー基準に適合する住宅でも割増融資を希望しないことがあるでしょうが、これではとても地球温暖化を防ぐまでにはいかな

政策誘導でエネ消費削減へ

エネルギー調査会では、COP3の目標達成に向けて、2008年度以降には新設着工住宅の5割が次世代省エネルギー基準を満たすこととし、残りの住宅についても2001年度以降は旧省エネルギー基準を、2006年度以降には新省エネルギー基準を満たすことを目標として打ち出しました。同調査会ではこれにより、2010年度の住宅分野のエネルギー消費量を原油換算で約300万kl(キロリットル)削減できると見込んでいます。

同調査会は何も対策しなかった場合、住宅・建築物における2010年度のエネルギー消費量は1億4千万klと見ていますが、次世代省エネルギー基準対応住宅の増加など性能強化によって約860万kl(うち住宅分野で約300万kl)、そのほか

設備機器の効率向上などによって約1千万kl削減し、住宅・建築物の目標として、2010年度のエネルギー消費量を1億2千万klにする考えです。(以下、次号に続く)



次世代省エネ基準で施工している北海道の住宅。高断熱化によってエネ消費量を抑えながら快適な生活を送れる

タフネツねっ☆と☆わ〜く ~sec.3~

水戸営業所

◎住所◎〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡 3660-15 TEL(029)291-1822/FAX(029)291-1825
 ◎支店開設◎平成8年10月 ◎責任者(主任)◎村上由治 ◎従業員数◎4名
 ◎営業エリア◎茨城県全域

【村上主任に聞きました】

■水戸営業所として日頃から心掛けていることは？

当営業所では、部署別に目標を持って業務を行っており、営業課では何と言っても高断熱・高気密の普及、工事課ではクレームゼロを目指してお客様の気持ちになって施工すること、そして経理課では整理整頓と明るい職場作りを心掛けています。

■ブローイングや高断熱・高気密住宅に対する地元業者さんの反応は？

残念ながら高断熱・高気密に対する関心は、茨城県全体を見ればまだまだあまり高いとは言えませんが、中にはかなり高いレベルの考え方をを持った工務店様もいらっしゃいます。この地域では高断熱・中気密という言葉をよく耳にしますが、断熱材の性能を100%引き出し、その性能を長期的に発揮させるためには、高気密施工が大切だと信じているので、今後も高気密の必要性をわかってもらうために頑張っていきたいですね。

■営業エリアにおける住宅業界の最近の動向は？

ローコスト化の進行が若干鈍ってきていると思われませんが、それと並行して高性能化が目立つようになってきました。各地域で大きな宅地分譲も行われているので、今後の着工動向を期待して見守りたいと思います。

■水戸営業所としてのPRを一言

茨城弁の「ペー」調言葉が飛び交う明るい職場が自慢の水戸営業所ですが、技術部長の指導のもと、お客様へより良い商品を提供できるよう、社員一丸となって取り組んでいます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



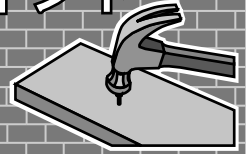
村上主任



高断熱・高気密工法のチェックポイント

第10回

健康住宅 ①



ここ数年、シックハウス症候群や化学物質過敏症がクローズアップされたことにより、ビルダーの健康住宅への取り組みはますます重要になってきています。そこで今回から健康性に配慮した設計・施工について紹介していきます。

Part.1 有害物質対策が基本

シックハウス症候群などの健康被害は、ホルムアルデヒドやVOCなど、内装下地の合板や接着剤、塗料などから放散される有害化学物質が原因と言われており、目や喉が痛くなったりするほか、過敏に反応する体質の人は自律神経障害や精神障害などを引き起こす可能性も高くなります(図A)。そこで健康的な住宅を造るうえで基本になるのが、「最初から有害化学物質を室内に入れない」という考え方と「室内に入ってしまった有害化学物質は除去する」という考え方。この2点を中心に設計・施工を行えば、室内空気汚染による健康被害を高い確率で防止できるはずです。

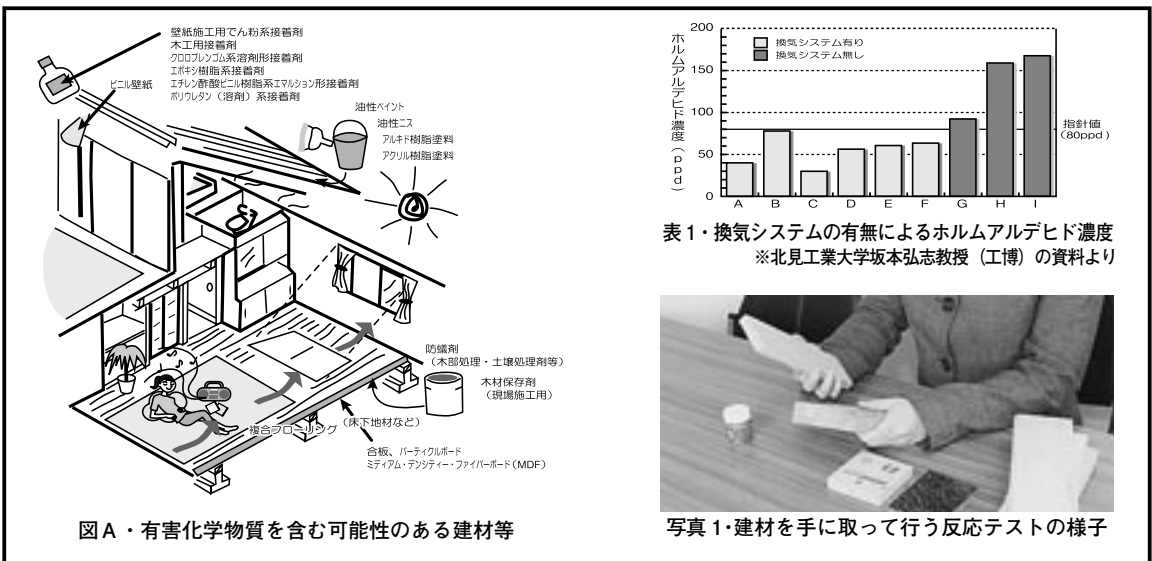
Part.2 高断熱・高気密が前提

有害化学物質を室内に入れないためには建材の選択が、有害化学物質の除去は換気が、それぞれ重要です。そしてこれらの対策に欠かせないのが高断熱・高気密・全室暖冷房。温度変化によるストレスとは無縁で、ダニ・カビの発生もない環境

は健康を維持するために必要不可欠であり、換気を計画的に行うためにも高い気密性能は必要となります。また、断熱・気密性が高く、換気を計画的に行っている住宅は、有害化学物質の室内濃度が厚生労働省の指針値を十分クリアするというデータもあります(表1)。

Part.3 ユーザーの健康状態を把握

特に建材等の選択に関しては、事前にユーザーとその家族の健康状態や生活習慣を把握することが大切。例えばすでにアレルギーやアトピー性皮膚炎、喘息等を患っている人は潜在的に発症しやすいと言われており、ゴミ焼却場やクリーニング工場などで働いている人、その近くに住んでいる人も要注意です。通常は、JASでFco等級の合板やフロア材、JISでEo等級のパーティクルボードなど、一般的な低ホルムアルデヒド建材を中心とした施工で十分と思われそうですが、発症する可能性があるユーザーには、建材を手にとったり、臭いを嗅いでもらったりして、反応するかどうか確認してから使用することが望まれます(写真1)。



図A・有害化学物質を含む可能性のある建材等

写真1・建材を手にとって行う反応テストの様子



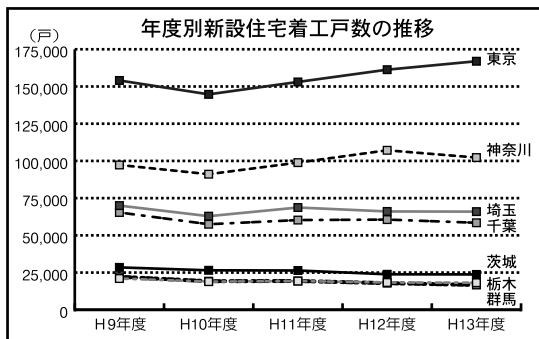
住宅業界ニュース&インフォメーション



13年度住宅着工は117万戸止まり

国土交通省が発表した平成13年度の全国新設住宅着工戸数は、対前年度比3.3%減の約117万3千戸にとどまり、2年連続のマイナス成長で3年ぶりの120万戸割れとなった。

特にマイホーム新築を表す持家は落ち込みが大きく、前年度比14%減の37万7千戸と新築戸建て市場の停滞を色濃く反映し、実に37年ぶりの低水準。アパートや賃貸マンションを表す貸家は同比6%増の44万2千戸と持家を上回り、5年ぶりのプラス成長となった。分譲は、マンションが同比2%増の22万3千戸となったのに対し、建売は同比5%減の11万9千戸と明暗を分けた。



関東各都県を見ると、増加したのは東京のみで、持家は減ったが貸家と分譲マンションが増えたことで、同比4%増の16万7千戸を記録。茨城は2万4千戸、栃木は1万8千戸、埼玉は6万6千

戸と、いずれも1%未満の減少でほぼ前年度並みの戸数を確保。群馬と千葉はともに持家が20%落ち込み、群馬が同比7%減の1万7千戸、千葉が同比3.5%減の5万8千戸。神奈川は同比4.6%減の10万2千戸となっている。

既存住宅の性能表示案公表

国土交通省では、中古住宅市場の円滑化と住宅ストックの有効活用等を目的として、「既存住宅の住宅性能表示等に対応した日本住宅性能表示基準・評価方法基準等の変更案」を公表した。今年の夏に告示・施行となる見通しだ。

制度案では、任意の利用で建設住宅性能評価のみ行い、性能表示は新たに設けられる「現況検査・特定現況検査」と、現行制度の「性能評価の表示事項」によって示すことになる。現況検査は部位ごとのひび割れや欠損など、特定現況検査は腐朽や蟻害などを検査・表示し、性能評価の表示事項は劣化の軽減、温熱環境、音環境を除く六分野から選択して評価・表示する形となっている。

◆編集後記◆

- ◆ ついに建設リサイクル法が施行になりました。最近の住宅解体現場の様子を見ても、材料ごとに細かく分類している様子で、かなりの労力を使う仕事だと改めて実感しました。(佐野)
- ◆ 仕事で1日400~500km運転することが年に何回かはありますが、冬だったら滑るのが怖くて緊張しっぱなしでも、今くらいの時期だと緑が綺麗で、気持ち良く車を走らせることができますね。(水越)



株式会社ダンネツ

ホームページURL <http://www.dan-netso.co.jp/>
E-mailアドレス info@dan-netso.co.jp

「快適な住まいづくり」はお任せ下さい!

- フローリング工事 ●気密・換気工事 ●防水工事
- ガラスウール工事 ●吹付・注入工事 ●パネル製造

■本	社	〒070-8045	旭川市忠和5条4丁目63-636	TEL(0166)61-9151	FAX(0166)61-2044		
■旭	川	工場	〒071-1248	上川郡鷹栖町2962番363	TEL(0166)87-4442	FAX(0166)87-4888	
■札幌	支	店	〒004-0055	札幌市厚別区厚別中央5条2丁目4-10	TEL(011)893-3588	FAX(011)893-3502	
■釧路	支	店	〒088-0621	釧路郡釧路町桂木5丁目15	TEL(0154)36-1790	FAX(0154)36-1844	
■帯広	支	店	〒080-2460	帯広市西20条北2丁目2-1	TEL(0155)41-4101	FAX(0155)41-4105	
■旭川	支	店	〒070-8045	旭川市忠和5条4丁目63-636	TEL(0166)62-7575	FAX(0166)61-1715	
■北見	支	店	〒099-0878	北見市東相内町174番地16	TEL(0157)36-3557	FAX(0157)36-3433	
■千歳	営	業	所	〒066-0008	千歳市根志越2190-27	TEL(0123)26-4111	FAX(0123)26-4112
■大宮	支	店	〒331-0064	埼玉県さいたま市大字佐知川字粕田159	TEL(048)624-9493	FAX(048)624-1857	
■宇都宮	支	店	〒321-0923	栃木県宇都宮市平松本町362-6	TEL(028)636-1266	FAX(028)636-2675	
■高崎	支	店	〒370-3523	群馬県群馬郡群馬町福島644	TEL(027)373-7199	FAX(027)373-5583	
■平塚	支	店	〒254-0017	神奈川県平塚市真土24-1	TEL(0463)54-6484	FAX(0463)54-2430	
■水戸	営	業	所	〒311-3116	茨城県東茨城郡茨城町長岡3660-15	TEL(029)291-1822	FAX(029)291-1825
■(株)ダンネツ	信	州	〒399-0033	長野県松本市大字笹賀5130-1	TEL(0263)26-0811	FAX(0263)26-1016	
■(株)ダンネツ	レ	ー	〒004-0022	札幌市厚別区厚別南1丁目828	TEL(011)801-6811	FAX(011)801-6822	